

指定校番号	28051	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長	奥 金実	生徒指導主事	林 寛
-----	-----------	----	------	--------	-----

取組事例名 『縦割り活動～なかよし給食・なかよし遊び』

取組のねらい『キーワード・・・集団』

- ・異年齢の集団と一緒に食事をしたり遊んだりすることを通して、他学年の児童との交流を深める。
- ・自発的、自治的に学校生活に関する諸問題を解決していくことにより、全校・学年・学級集団への所属感や連帯感を深めさせる。
- ・指導者は、担当学級や担当教科以外の児童との活動を通し、より多くの児童理解につなげる。

取組の具体的内容『キーワード・・・連帯』

本校ではいろいろな場面で縦割り班を取り入れた活動を行っている。主なものは以下の通りである。

- ・縦割りそうじ・・・メンバーへの清掃場所の指示から反省会までの活動をリーダーが率いて行う。
- ・1年生歓迎遠足・・・全校児童が班ごとに並んで歩く。現地では児童会執行部が全体レクを実施する。
- ・縦割り挨拶運動・・・校門と児童玄関の計4ヶ所に1班ずつ交替で立ち、元気な声を響かせている。
- ・6年生を送る会・・・縦割り班でお世話になったリーダーにお礼の気持ちをこめた感謝状を贈る。

これらの活動のうち、今回は「なかよし給食・なかよし遊び」という取組について紹介する。

- ・なかよし遊び・・・年2回、お弁当給食を持ち、グループごとに昼食をとる。その後、校庭・体育館・教室に別れ、班ごとに企画したなかよし遊びを実施する。詳細は以下の通り。

実施計画

- ① 会食場所や遊びの内容を考える。
 - ・13：35から、みんなで「遊びの内容」を相談して決定する。
 - ・原案は、6年生のリーダーを中心に5・6年生で考えておく。
- ② 会食場所と遊び場所の検討

安全面を考慮し、屋外で遊ぶ班を前期後期で交替する。

 - ・赤グループ、黄グループ→遊びは屋内 → 体育館か各教室で
 - ・青グループ、緑グループ→遊びは屋外 → 校庭で（雨天の場合は教室とする）



③ 遊びの内容

1年生から6年生までと一緒に遊べるもの（だれもが参加できるもの）にする。

他のグループのことも考えて、遊びを決定する。

安全面を考慮して、おにごっこ（ケイドロ）は行わない。

決定した会食場所は調整するので、掃除担当者より生徒指導部に知らせる。

④ あとしまつに関する注意

残菜とわりばし、弁当容器は決められた袋に入れ、5年生が給食室に持って行く。

⑤ 指導担当者も計画から共に参加し、適切なタイミングで助言を行う。

取組の課題・創意工夫『キーワード・・・調整』

縦割り活動は、赤・青・黄・緑の4色に、それぞれ1～15・16の班を作って活動する。班の人数は、10～15人とする。それぞれの班には2・3名の6年生がリーダーとして配置されている。しかし、責任感が希薄なリーダーや積極的な声かけが苦手なリーダーのもとでは、元気がありあまっている低学年の児童を上手にリードしきれていないケースも見られた。そこで、グループ確定前の連絡会において指導者がおたがいの担当する児童の情報を共有し、それぞれのグループで円滑な活動が実施されるようメンバーの調整を行っている。また、班編成は前期（4～10月）と後期（11～3月）の2期制として、いろいろな児童との触れ合いの機会が増やすとともに、活動が停滞しがちな班のメンバー構成を刷新して、グループの活性化を図れるようにした。

取組の成果（効果）『キーワード・・・協働』

- ・楽しい会にするために、いろいろな遊びを企画したり、賞状や宝探しの宝物を手作りしたりと、準備段階から6年生のリーダーは大活躍だった。
- ・計画や準備には6年生だけでなく5年生も積極的に参加し、協働の姿勢で下級生のために活動することができた。これらの活動の中で、高学年としての自覚も芽生えた。
- ・さまざまな個性の児童が集まる異年齢集団での活動を通して、自分本位の行動をおさえて周囲の人々に対する配慮ができるようになるとともに、集団への帰属意識を高めることができた。
- ・相手の気持ちを理解しようとする態度が育ちつつある。やさしい態度で人に接する場面が増えた。
- ・「自分のことをわかってくれる友だちがいますか？」という道徳アンケートに、77%の児童が「そう思う。」16%の児童が「だいたいそう思う。」と回答していることから、いろいろな集団の中に安心できる居場所を見つけることができている児童が多いのではないかと思われる。

今後の展開『キーワード・・・継承』

児童会執行部の引継ぎとともに、縦割り班におけるリーダーを交代する。縦割りそうじも5年生が実質的なリーダーとなり、6年生が果してきた役割を担う。これまでの6年生の働きを肯定的に評価し、成果を明らかにすることで、4・5年生の心に「次は自分達がんばる番だ。」という自覚をもたせ、次期リーダーとしての責任感を高める。

他校へのアドバイス『キーワード・・・支援』

指導者には、5・6年生の児童がリーダーとして集団の中で輝けるように、それぞれがもつ個性を見抜き、適切なタイミングで助言を行うなどの舵取りが求められると考えるが、楽しい会を共に作り上げる喜びを体感できる取組になっていると思う。